■人の上に立てば立つほど、

能力の無さも心の汚さも隠せなくなる

修正：　2022.03.01

投稿：　2022.03.01

●人の上に立てば立つほど、

能力の無さも心の汚さも隠せなくなる①

“上司”と検索すれば“ウザい”が関連語として
ピックアップされていることから分かるように、
「上司」を「ウザい」と感じている人は
世の中にたくさんおられるのでしょう。では、

どうして上司はウザいのか？

人は、自分よりも弱いと思える相手に対しては、
自然と態度が大きくなりがちです。
上司が部下に、教師が生徒に、先輩が後輩に、親が子供に、…、

「俺が来たからには、今までの古臭いやり方は捨てて…」とか、
「何やお前、そんなことも知らんかったんか！」とか、
単純に自慢するだけの人もいれば、
相手を見下して自分を押し上げようとする人もいます。

こうした態度を**“ウザったい”**と感じるわけです。ただしそれは、
その人が立場が上になったからウザったくなったのではありません。

もともとウザかったのです。そして、立場が上になることで、
傲慢な振る舞いもできるようになり、いよいよ
ウザったさが周囲に伝わるようになった、というだけの話です。
(「内から外へ」の原則です)

上に立てば立つほど心の汚さは隠せなくなります。
このことから逆に考えると、
もし自分がリーダになる予定があるのであれば、

まだリーダではない、自分の傲慢な心や未熟な要素が
周囲に伝わらない影響力の弱い立場のうちから、
せっせと己の心の内面を磨いておかなければならない、

ということが言えます。リーダになって初めて、
「もしかして嫌われてる？何がそんなにダメなんだ…」
と気づくようでは遅いと言えましょう。

「国を治めるなら、まずは己を治めなさい」
これは政治家向けの言葉ですが、
職場における上司や、家庭における親にも、同じことが言えます。
「人を管理するなら、まずは自分を管理しなさい」と言うことです。

（続）

//==========//

●人の上に立てば立つほど、

能力の無さも心の汚さも隠せなくなる②

キーボードをタイピングしすぎて、
Enter キーが壊れてしまいました…。ちなみに、
私のキーボードには Enter キーが 3 つあります。

//----------

目上の人は、目下の人から
「自分のことは隅々まで見られているのだ」
ということを、自覚しておかなければなりません。

立場が上がれば上がるほど、それだけ注目されるわけですから、
長所も短所も、自分の犯した失敗も、それに対する対応も、
知らず知らずのうちに、周囲に伝わることとなります。

スターバックスコーヒージャパン元 CEO の岩田松雄氏は、
会社の経営状態が悪かった頃、
トイレに入ったときの自分の表情が暗かったことから、
そのときすれ違った数人の部下に、

「何だか、今日の社長は元気がなかったな…。
もう、この会社も潰れるのだろうか…。」

と噂されてしまったそうです。
大企業の社長ともなれば、ため息一つつくだけでも、
周囲を不安にさせるわけですから、

「いついかなる時でも部下から**隅々まで**見られているのだ」
ということを、意識しておかなければなりません。

社長の表情が暗かったのは、会社とは何の関係もない
家庭のことが問題であったとしても、部下からすれば
「この会社の将来も暗いのか…」と不安に思うところですし、

社長の背筋が曲がっていれば、
「会社の経営状態も紆余曲折か、もう潮時かな…」
と職場の士気を下げかねません。

目上の人は、目下の人から
「自分のことは隅々まで見られているのだ」
ということを、自覚しておかなければならないのです。

（続）

//==========//

●人の上に立てば立つほど、

能力の無さも心の汚さも隠せなくなる③

「人の上に立つ人」と言われて、真っ先に思い浮かぶのは、
政治家や経営者、頭取や将官といったところでしょうか。

特に、多くの人から注目されるのが**「政治家」**です。
これまでにも度々、政治家の問題発言が世間を騒がせ、
大臣を辞任する事態にまで発展したこともありました。

東日本大震災後、当時の経済産業大臣が
被災地を“死の町”と表現し、この発言が問題視され、
大臣を辞任する事態に追い込まれています。

「そのような発言をするとは、信じられません。
　大臣としての自覚があるのか、まったく理解に苦しみます。」
と、マスコミ相手に饒舌に語っていた政治家ですら、

「この度、私は、議員辞職するに至りました…」と、
半年前の自分はどこへやらです。もしこれが職場であれば、
上司や部下からの支持率が下がることになりますし、
家庭であれば、家族からの信用を失うことになります。

「政治家の問題発言」も決して他人事ではありません。
しかしながら、人間とは、他人を責めているときは、
自分のことはとにかく棚に上げようとするものです。

「名刀、己を斬れず」

どんな名刀も、自分自身を斬ることはできないように、
どんなに鋭い人も、自分自身を痛烈に批判することはできません。

そして、人の上に立てば立つほど、それだけ注目されるわけですから、
軽いジョークもまったく軽くはなくなるのです。すべての発言に、

立場の重みが付け加わることを忘れてはいけないのです。

（完）

//==========//

Web サイト：

心を力学する　―原理・原則に基づく生き方を考える―

著者：

時無　和考(Tokinashi Kazutaka)